

校長室便り

四條の風学園上四条小学校

9号 家庭数配付



校長 林 美予子

平和公園に立っている「原爆の子」の像です。折鶴を掲げています。



平成30年8月6日(月)

8月6日と8月9日、そして8月15日が何の日か知っていますか。

平和登校の放送集会でのお話から

- 日本は、今から73年前に戦争をしていました。1945年、昭和20年、今から73年前の8月6日に広島に原子爆弾が落とされました。その3日後、8月9日に今度は長崎に原子爆弾が落とされました。(原爆が落とされたのは世界中で日本だけです) 罪もない人々がお年寄りから小さな子どもまでたくさん亡くなりました。広島で原子爆弾で亡くなった人は16万6千人、長崎で原子爆弾で亡くなった方は7万4千人です。合わせると24万人の人々がたった2つの原子爆弾で亡くなっています。
- 日本中で、この戦争で亡くなった人は、310万人と言われています。東大阪市の人口が約50万人ですから、東大阪市の人の約6倍以上の人が亡くなりました。大阪府でも多くの人々が亡くなっています。特に1945年の3月14日から8回にわたって行われた「大阪大空襲」では、当時の布施市(今の東大阪の西地区)をはじめ、大阪で多くの建物や施設も爆弾で壊されました。その空襲では1万5千人の人々が亡くなりました。
- そして、そののち、日本は8月15日に「戦争に負けました。」と認めました。8月15日は終戦の日です。



- これは、広島の前爆ドームです。昨年の修学旅行の時に撮影しました。また左の大きな写真は、広島の平和公園に立っている「原爆の子」の像といえます。折鶴をかかっています。中学1年生の秋に「死にたくない」という強い思いをもちながら、亡くなっていった佐々木禎子(ささきさだこ)さんがモデルになっている銅像です。

■「原爆の子」の像のそばには、たくさ

んの千羽鶴があります。私たちは、この戦争に負けた時、二度と戦争はしないと決めました。この像のように、戦争で亡くなった人々をまつり、平和を祈るための施設には、千羽鶴がそなえられます。

「戦争で、亡くなられた皆様、どうぞ安らかに。」という思いから、「私たちは、二度と戦争はしません。」という思いの二つの思いから、千羽鶴をお供えするのです。

■戦争は、悲惨で哀しいことばかりです。戦争で勝ったとしても、そこには多くの人の命が犠牲になっています。戦争は絶対にしてはいけません。上四条小学校の皆さんも「戦争は絶対にしてはいけないことだ。」と強く心に思っていてほしいです。

■では、戦争を起こさないようにするためにはどうすればいいのでしょうか。まずは、「戦争を起こさないという強い心をもつこと」です。次には、「戦争を起こしてはいけないことを表現すること」です。一番大切なことは、「戦争を起こしてはだめだ。」と、自分の考えを言うことです。言わなければ、戦争を起こそうとする人が表れた時、戦争を止めることができません。自分の考えをしっかりと相手に言うためには、「話す力」をつけることが大切です。

■「話す力」をつけるためにはどうしたらよいのでしょうか。「話す力」をつけるためには、学校で勉強をするときに「皆さんが自分の思っていることをしっかりと話し、相手に伝わるように話すようにする。」ことです。これはなかなか難しいです。でも、学校の勉強を自分から進んで取り組んだり、本を読んだり、書いてあることを理解しようとしていたり、発表したり、友だちと仲よく話し合ったりしていくことで、その力がついてきます。相手を傷つけないように話す、やさしい話し方も大切です。

■上四条小学校の皆さん。ぜひ、小学校で「話す力」を身につけてください。これからの日本は、今子どもである皆さんたちが成長して大人になって築き上げていくのです。皆さんが立派な大人にならなければなりません。そして今日は、平和登校日です。みんなで戦争の悲惨さ・平和の大切さについて、しっかり勉強しましょう。

裏には、昨年8月6日の広島平和記念式典で広島の小学生が世界中に伝えた「平和への誓い」の全文を掲載しています



こども代表 平和への誓い

2017年 広島平和記念式典より

げんしばくだん とうか まえ ひろしま うつくしいしぜん
原子爆弾が投下される前の広島には、美しい自然がありました。

だいすき ひと やさしいえがお ぬくもり
大好きな人の優しい笑顔、温もりがありました。

いっしょ つくる みらい
一緒に創るはずだった未来がありました。

ひろしま あたりまえ にちじょう
広島には、当たり前前の日常があったのです。

しょうわ ねん ねん ごぜん し ぶん
昭和20年（1945年）、8月6日午前8時15分、

ひろしま まち やけのはら
広島の街は焼け野原となりました。

ひろしま まち うしなつ
広島の町を失ったのです。

おおく いのち おおく ゆめ うしなつ
多くの命、多くの夢を、失ったのです。

とうじ しょうがくせい かたりべ ぼう なくなつ はは あね みて なみだ
当時、小学生だった語り部の方は、「亡くなった母と姉を見ても涙が

でなかつた」と語ります。感情までも奪われた人がいたのです。

たいせつな うばわ こころ なか ふかいきず おつ ひろしま ひとひと
大切なものを奪われ、心の中に深い傷を負った広島の人々。

しかし今、ひろしま ひとひと えがお しぜん まち
しかし今、広島は、人々の笑顔が自然にあふれる街になりました。

くさ き みどり まち
草や木であふれ、緑いっぱいの街になりました。

へいわ とし せかいじゅう ひと かんしん も た まち
平和都市として、世界中の人に関心を持たれる街となりました。

あのまま ひとひと あきらめて ぶつこう つよいおもい ねがい
あのまま人々が諦めてしまっていたら、復興への強い思いや願いを

すてて くるしいなか ひつし いきて ひとひと
捨てていたら、苦しい中、必死で生きてきた人々がいなければ、

いま ひろしま
今の広島はありません。

へいわ かんがえるばしょ ひろしま
平和を考える場所、広島。

へいわ ちかうばしょ ひろしま
平和を誓う場所、広島。

みらい かんがえる ばしょ ひろしま
未来を考えるスタートの場所、広島。

みらい ひと せんそう たいけん ぶよう
未来の人に、戦争の体験は不要です。

しかし、せんそう じじつ ただしくまなぶ ひつよう
しかし、戦争の事実を正しく学ぶことは必要です。

ひとりひとり いのち おもみ しる たがい みとめ
一人ひとりの命の重みを知ること、互いを認めあうこと、

まっすぐ せかい ひとひと とどくことば ねばり強くつたえて
まっすぐ世界の人々に届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えてい

きます。

ひろしま わたし ゆうき だし
広島の子どもの私たちが勇気を出し、

こころ こころ かけはし きずい
心と心をつなぐ架け橋を築いていきます。

へいせい ねん ねん
平成29年（2017年）8月6日

こども代表 ひろしましりつ おおしばしょうがっこう ねん
こども代表 広島市立大芝小学校6年 竹舛直柔

ひろしましりつ なかすじしょうがっこう ねん
広島市立中筋小学校6年 福永希実